

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン**

東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

10月以降ボランティア数が大変少なくなっておりますが、各カリタスベースは、被災者に寄り添いながら継続的に活動を行っております。今回は、カリタス釜石において開催された臨時総会と最近の活動について、カリタス釜石のスタッフ千田さんからご報告いただきました。また、福島県南相馬市原町区を拠点として主に南相馬市で活動をしているCTVCカリタス原町ベースと、宮城県登米市東和町米川を拠点として南三陸町で活動をしているカリタス米川(南三陸)ベースの間に、月に一度、同日程でスタッフを交換しての活動が行われています。その活動について、原町ベースのスタッフ山内さんと米川ベースのスタッフ向井さんにご紹介いただきました。

日々の活動から

カリタス釜石 千田 榮

NPO法人カリタス釜石の日々の活動では、ボランティアの方々の力が必要不可欠です。

10月20日臨時総会が開かれ、今年度中間期の事業(活動)報告と会計状況報告、将来事業への展望等について話し合いました。理事をはじめ、正会員15名が一堂に会し、積極的に質問意見を交わしながら終えることができました。会員の中には、ボランティアとして実際に活動した方もおり、釜石に来た経緯や活動を通して感じたことも話され、思いを知る場ともなりました。

震災後、個人、学校をはじめとする各団体の皆さまのお祈りやご協力にはとても感謝しております。このご縁を大切に、先の見えない不安を抱えている釜石の住民の方へ私たちの活動が少しでも役に立つことが出来たら、希望の光を感じ取っていただけたらと再確認した日となりました。



2013年10月20日(日) 臨時総会 カリタス釜石にて

総会を終え、少し落ち着きを取り戻した日常となり、迎えた10月後半。フリースペースの「ふいりあ」で、ハロウィンパーティーを行いました。カリタス釜石では、場所の提供先として「ふいりあ」を開放しております。その一環で、放課後子ども教室を利用している小学生を対象にパーティーを楽しみました。思い思いの仮装をし、集まった子どもたち…。「トリック ア トリート！」という前に、「自分たちでお菓子を作るうー！」とホットケーキ作りに挑戦しました。クリーム、みかんでデコレーション。なぜか白い髭を生やした小さな大人たちが誕生しました。ボランティアの学生も、子どもたちが安全に動くことができるよう、テーブルやコードの配置を手伝い、片づけや声掛けをしてくれました。その場で必要な事を判断し、自分たちが出来る事を行動に移してくれて頼もしかったです。

毎日、活動の始まりと終わりにミーティングをします。ある日の夕のミーティングでのことです。次の日の朝、釜石を出発される方が挨拶をされました。「活動ができ、僕は本当に幸せだった。仮設住宅に



個性豊かな仮装をして
集まった子どもたち♪

ハロウィンパーティー開催！



お邪魔して、住民の方々の思いやる心、かといって干渉しない、成熟したお互いを気遣う心にとっても感動した。それが自分にはとても印象的だった。この様子を地元に戻って伝えたい。これから行こうとするボランティアの皆に伝えたい。」その方の魂のこもった言葉が他のボランティアやスタッフにじんわりと伝わった瞬間。とてもよい空気が流れ、あたたかい雰囲気にも包まれた瞬間。ちょっと涙ぐみながらも、その場にいた皆が幸せを味わったミーティングでした。

これから寒い冬を迎えます。活動のひとつ「お茶っこ」もいつも通り行われます。いつも通り集うでしょうが、住民の方々の心は様々だろうと推測できます。会話の一言から感じ取る場合もあるからです。だからといって、私たちは特別なことは出来ません。ボランティアの皆さんも、出来ることをします。クリスマス控え、住民の方へプレゼントを贈りたいと申し出てくださる方々がいらっしゃいます。現地に行くことは出来ないけれども、住民の皆さんに渡してほしいと思いの詰まったプレゼント。それらを今年もお渡しします。思いを代わって伝えていく、そのつながりがまた他の方々へとつながっていく。そんな幸せな連鎖を住民の皆さん、ボランティアの皆さんと一緒に作りあげていきたいと思っています。

カリタス米川/原町ベース スタッフ交換交流

CTVC カリタス原町ベース 山内 康嗣

毎月1回、東京方面からボランティアさんを募り、足湯隊が原町ベースにやってきます。足湯隊は、南相馬市の各仮設住宅集集場で足湯サロンを行っています。

※足湯隊の活動内容につきましては、原町ベースホームページ、フェイスブックをご覧ください。

この足湯隊が活動する期間、足湯の経験が豊富な米川ベーススタッフの向井さんと、米川ベースでボランティア活動を始め、そこから原町ベースでボランティア活動を経てスタッフになった私が、交代して活動しています。

当初の目的は、米川ベースの向井さんが抜けるため、スタッフ補充のために私が米川ベースへ行っていました。現在では自分の中で意味合いが少し変化してきました。

私は、米川ベースがお手伝いする南三陸町での田畑の石拾い・農産物出荷などの「農業支援」、漁具補修・出荷お手伝いなどの「漁業支援」は、復興へのプロセスとして『見て体感』し、南相馬市が復旧から復興へと動き出した際、きっと役に立つと考えています。



米川(南三陸)ベースの活動を通じて出会った若者たち

私がいる福島県南相馬市には、平成25年10月時点で、6万5000人(約2万2500世帯)の方々が暮らしています。市内各区の現状は、沿岸部の復旧工事もままならず、汚染水で漁業の試験操業は再開と中止を繰り返し、農地は未だ放置され続けています。

この地は、地震と津波の被害に加え、国全体でその未来を考えねばならない『原発・放射線』の問題があります。最近ようやく(仮)置き場が完成しました。大震災から2年8カ月経ち、未だ(仮)です。

今現在、南相馬市での原町ベースの活動は、仮設住宅集会場のサロンでの『傾聴活動』お茶っこと、避難指示解除準備区域(夜間の町への出入りが禁止)の、小高区で町や個人宅の片付け等『屋外活動』という大きく分けて2つの活動があります。

私は屋外活動を担当していますが、ボランティアさんの減少傾向は、この南相馬市も同じです。震災瓦礫の仮置き場や焼却処分が『やっと』決定しつつあり、まだまだ人の力が必要とされる段階で、ボランティアさんは残念ながら減少傾向です。そして、屋外活動のボランティアさんの平均年齢は、かなり高いのが現実です。

これで本当に次の世代の人達が原発や放射線に、向き合っている社会が来るのか?と、考えさせられます。京都出身の私ですが、この町に起こった事を『他人事』として考えられません。

私が米川ベースで活動を通じて出会った多くの若者たちの中から、何名かは勇気と行動力で、原町ベースに活動に来てくれました。

安心安全を掲げた『原発』、『絶対の安全』がない原町ベースでの活動。いつ余震、低線量被曝等で、リスクが発生するかもしれません。私から米川ベースに集まる若者たちに『原町ベースに来て』と誘うことは一切しませんが、私が米川ベースに顔を出すことにより、原町ベース?南相馬市?福島県?原発?と、例え一人でも考えてもらい、意識してもらえればと思っています。

そのような思いで、現在はスタッフ交換交流を行っています。

カリタス原町ベースと米川ベースのスタッフ交換における、わたしの原町ベースでの主な役割は、原町ベースを拠点として活動する「足湯ボランティア」と行動し、お手伝いさせて頂くことです。

足湯ボランティア

カリタス米川ベース 向井 清子

日常生活の中で、「足湯」というと、温泉街や公共浴場によくある場所で、足を浸して温める場所のことを思い浮かべるかもしれませんが。しかし、支援活動としての「足湯」は、これら日常的な足湯の風景とは少し異なります。

一被災者とボランティアが1対1で対面し、お湯を張ったタライの中に足を浸して、被災者の手をボランティアが揉みほぐしていく—このような景色の中で、初めて出会った2者が共に時を過ごすのです。

足湯の活動で、特に大切にしていることは、まずお湯で温められてほっとしてもらうこと、次にそこで語られる言葉に注意深く耳を傾けていくこと、そして沈黙には、沈黙で寄り添うことです。初めは互いに緊張しながらも、次第に心が開かれ、大切な心の「つぶやき」を聞き取っていく時、ボランティアと被災者の間で、心の深みに触れていくようなダイナミックな体験をすることもできるようです。

「足湯」は、神戸の震災の時に始まり、中越地震を経て、今回の震災では多くの人々が体験し、広く知られるようになりました。述べ1万人もの人が、足湯のボランティアを体験したのです。足湯をきっかけにして出来た多くの人との繋がりは、その他の支援の中でも「特に緊急時に必要な支援体制を整え協力していく」ネットワークを生み出しました。

そうして、この原町ベースにおいても、足湯を体験した人たちが次第に集まり、仮設での支援を行うようになったのです。わたし自身もまた、この震災から足湯と関わってきたひとりでした。今回、カリタ



スの外の繋がりの中でよく知る仲間たちと、共に働く機会をいただけたのはとても嬉しいことでした。なぜなら深く関わる二つがここに来て協力しながら、福島での活動という新しい広がりを見せていくのは、わたしにとっても喜びだからです。

米川のスタッフが原町へ、原町のスタッフが米川へ。当たり前のことですが、初めて訪れた南相馬市は、普段わたしが活動する南三陸町とは被災状況も、住民の不安や心配も、全く異なるものでした。仮設のつくりも、被災者の生活も、昔からある文化も方言も、街の景色も、全く違うのです。新しい環境の中での活動は、刺激や喜びももちろんですが、同時に胸が痛むこともあります。毎月の訪れの中でも、未だ片付かない瓦礫を眺めるにつけ、重苦しい気持ちになるのです。

それでも、2ベースの繋がりの中で生まれた体験を経て、わたし自身の日常の場へと戻っていくとき、確かな励ましと力を得ていることに気付かされるのです。それは被災地という現実の中で、わたしにとって再び新しい一日を生きる力となっており、そのことに深い感謝の気持ちを感じているのです。

カリタス米川(南三陸)ベース
 詳しい活動の様子は、ブログをご覧ください。
<http://cjyonekawa.wordpress.com/>

CTVC カリタス原町ベース
 詳しい活動の様子は、フェイスブックをご覧ください。
<https://www.facebook.com/ctvc.haramachi>